

にいがた労福協

<ライフサポートセンター>

No24 2016年 1月 25日発行
 一般社団法人 新潟県労働者福祉協議会
 〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地2
 Tel 025-281-0890 Fax 025-281-0891
 e-mail:ni-rfk@bz04.plala.or.jp
 URL <http://www.niigataken-rofukukyo.com/>
 発行責任者 山田 太郎

2016年 明けましておめでとうございます
 連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会の実現に向けて



職員	事務局員	事務局長	監事	監事	監事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	専務理事	副理事長	副理事長	理事長		
渡辺 薫	小野塚勝一	大瀧 幸二	関川 稔	宝金 満	諸橋幸太郎	羽深 浩一	矢島 良彦	田代 隆	村田 和也	林 光弘	加賀 時夫	岡田 雅彦	土田 啓介	牧野 茂夫	小谷野いく	小熊 勇	米山 哲也	小野塚 豊	齋藤 悦男	山田 太郎	田才 栄敏	江花 和郎	齋藤 敏明
労福協	総合生協	労働金庫	総合生協	労働金庫	連合新潟	上越地区	長岡地区	新潟地区	新潟財団	高齢協	労信協	総合生協	労働金庫	連合新潟	情報労連	交通労連	JAM新潟	自治労	労福協	総合生協	労働金庫	連合新潟	連合新潟

よろしくお願い申し上げます



安心・共生の福祉社会の実現に向けて、社会運動の先頭に立つ
理事長 齋藤敏明

あけましておめでとうございます。

新潟県労福協は、1988年に、連合新潟、労働金庫、総合生協による、親睦行事、国際交流を中心に活動を行う組織としてスタートしました。現在はどうかと言えば、12会員団体へと組織は拡大し、また、10カ所の地区労福協とも力を合わせ、運動領域は、当初からの活動に加え、社会運動にウイングを拡げ、柱に据えているライフサポート事業をはじめ、生活困窮者自立支援事業、にいがた福祉リーダー塾、ワーク&ライフフォーラム・セミナー、他団体との連携によるフードバンク、よりよいホットライン、消費生活ネットワーク——などの事業を進めております。残念ながら格差と貧困が拡大し続ける今日、より一層労福協が取り組む社会運動への期待が広がっています。

特に、現在展開している「奨学金問題」の改善に向けた取り組みは急務です。大学生の二人に一人が「奨学金」という名のローンを利用し、平均300万円ほどの借金を抱えて、将来に不安を抱き社会に出ていく現状は、もはや学生や若者だけの問題ではなく、社会的な課題であり看過することはできません。一刻も早く改善をしなければ、我が国を支える元気な若者がいなくなり、国の根幹にかかわることになります。昨年来、労福協は「奨学金」の改善に向けた署名活動にも取り組んでおりますので、皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。

県内で働き、暮らす多くの人の支えとなる労福協運動。「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」の実現に向け、皆さんと力を合わせ、取り組みを進めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2016年新春労働団体・友誼団体名刺交換会(380名参加)



限られた時間の中ではありましたが、各団体、参加者の懇親を深め、最後は、田才副理事長の「締め」により、2016年新春労働団体・友誼団体名刺交換の終了となりました。

その後、新年の初仕事として、泉田県知事、篠田市長、齋藤理事長、江花副理事長（新潟総合生協理事長）、田才副理事長（新潟総合生協理事長）による恒例の鏡開きが行われ、江花副理事長の乾杯で交流会がスタートしました。

交流会では、行政の関係者やNPO団体など、新たな顔ぶれも見られ、労福協運動のウイングの拡がりを感じさせる会となりました。また、「フードバンクにいがた」の活動に連携し、開始後20分間は席を立たず、ひたすら飲み食いし、するという食べ残しゼロ運動に協力していただきました。



例年になく暖かな陽気の中で迎えた新年、2016年1月5日（火）、ANAクラウンプラザホテルにて、県労福協主催の新春労働団体・友誼団体名刺交換会が380名が参加する中で開催されました。開会にあたり主催者を代表して齋藤理事長が挨拶。多くの来賓を代表されて、泉田新潟県知事、篠田新潟市長のお二方から新年のご挨拶をいただきました。



勤労者の暮らしをサポート 育成会

(正式名称)

「勤労者とその家族の暮らしに役立つ活動を支援・育成する会」

- 育成会は新潟労金に加入している団体会員（県内約2400会員）によって構成されています。
- 育成会には労金本支店所在地で活動する25の地区育成会があり、それぞれの地域で勤労者福祉の前進に関する諸活動を行っています。
- 育成会役員は各店舗ごとに設置された労金常任推進機構から選出されています。

夢咲Clubの案内

夢咲Clubは労金に加入していない勤労者や退職者の方々

が、労金を利用する際に加入いただくメンバークラブです。預金、給与振込、公共料金自動振替をはじめ、住宅ローン、マイカーローン、教育ローンなど、各種ローンのご利用ができます。

<ご加入資格>

県内に居住または勤務する勤労者等

<ご入会手続き>



労金関係業務(育成会・夢咲Club)運営事務局 勤労福祉会館内

連絡先 Tel 025(281)1188

E-mail: spp66tw9@samba.ocn.ne.jp

2016年頭あいさつ 中央労福協会長 神津里季生



新年明けましておめでとうございます。
いま日本

は、雇用の劣化、貧困や格差の拡大等、社会の持続性が問われています。次の時代を担う多くの若者も、奨学金という多額の借金を背負い苦しんでいます。

社会全体で若者を支えていくため、給付型奨学金制度の導入・拡充等を求める署名活動に全力をあげ、広範な世論のうねりをつくっていきましょう。

中央労福協は、「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」に向けて、再分配機能の強化や社会的セーフティネットの充実など「公助」機能の強化を求める運動と、自ら「共助」機能の発揮を強める運動を、車の両輪として進めてまいります。

また、生活困窮者自立支援制度を通じた地域づくりや、ライフサポート活動の深化にも取り組んでいきます。これまでの労福協運動の原点をしっかりと継承・発展させ、労働組合と労働者自主福祉団体、協同組合との連携を強固なものにし、職場に、地域に、共助の輪を広げていきましょう！

第12回ハバロフスク地方労働組合 代表団5名が来日して交流

国際交流協定にもとづき、第12回ハバロフスク地方労働団体連合会の代表団（ガリーナ団長以下5名）が、9月22日～29日の日程で来日されました。

連合・労福協との交流、 亀田製菓企業見学

代表団一行は、9月25日に勤労福祉会館で連合新潟・県労福協の役員と労働環境をとりまく情勢や社会・経済問題等について意見交換されました。翌日26日には、亀田製菓の工場を見学され、幹部社員による事業概要の説明を受け、先進的な機械設備を目のあたりにする機会を得て感嘆した様子でした。当日は、ワーク&ライフフォーラムが開催されており、夕方の大交流会の中でロシアからのお客様としてご紹介されました。

歓迎夕食会

歓迎夕食会には、来賓として、在新潟ロシア連邦総領事館よりヤーセネフ総領事とイワノフ書記官を招き、連合新潟・労働金庫・総合生協・労福協等役員との盛大な交流会が開催されました。

1966年交流協定締結以来、新潟県労福協に引き継がれて今回で12回目の訪日となります。49年間に及ぶ長い歴史と伝統に支えられ、さらに友好と連帯を深め、両国の労働者の幸せと交流発展のための力合わせを確認し、有意義な交流会となりました。その後、代表団は、関西方面を視察され無事に帰国の途に着きました。



生き心地のよい地域社会を めざしてin柏崎

10月18日（日）、新潟県労福協・柏崎地区労福協の協同主催によるシンポジウム「生き心地のよい地域社会をめざしてin柏崎」が「柏崎市市民プラザ・波のホール」で160名が参加する中で開催されました。

このイベントは、県労福協が4年前から地域自殺対策緊急強化補助事業として

労働金庫から生活資金や住宅資金を借り入れる際の保証人となる 勤労者のための信用保証機関です。

【保証引受の実績】（2015年11月末現在）

保証引受の内容	保証引受残高（千円）
無担保ローン	42,272,484
有担保ローン	127,489,784
合 計	169,762,268

〒951-8113 新潟市中央区寄居町332番地18

一般財団法人新潟県労働者信用基金協会

新潟県から委託され、今年は、柏崎地区労福協を中心に行政や福祉事業団体、NPO・市民活動団体など、多くの団体・関係機関の方々の協力をいただき実行委員会を立ち上げ実施してきたものです。

開会にあたり、県労福協・山田専務理事より主催団体を代表して挨拶がされました。

その後、第一部は、5年連続となりましたが、自殺対策のエキスパート「清水康之氏」



（ライフリンク代表）「から、「自殺のない生き心地のよい社会をめざして」をテーマに基調講演を受けました。第二部は、『若者の悩みを地域みんなで気づく・つなげる・支える』をテーマに、柏崎刈羽地域の若年層に対する取り組みや現状、若者の自殺の特徴等、自殺対策の第一線で活躍されている方々によるシンポジウムが開催されました。

自殺予防対策は、地域全体の課題であると同時に行政の役割、民間で出来ること、地域や家庭で出来ることなど、課題とシッカリと向き合い、より多くの人に関心をもってもらい理解を深めていただくこと、そして、地域全体がよりそい支えるネットワークを拡げ、連携した対策が大切であるとの確認がされました。

最後は、実行委員長としてご協力いただいた、医療法人立川メディカルセンター・柏崎厚生病院・松田ひろし院長より、まとめと御礼の挨拶があり散会となりました。



コーディネイター 中澤 泰二郎 氏
(新潟県弁護士会人権擁護委員会委員長)

シンポジスト 阿部 亮 氏 (関病院)
平野 実良 氏
(新潟産業大学講師)
田中 玲子 氏
(柏崎ゲートキーパー自主グループまめしてら)
荒川 尚美 氏
(柏崎市元気支援課係長)

「評価・検証委員会」設置 ライフサポートセンター

10月9日（金）、2015年度事業方針に基づき、ライフサポートセンター（LSC）「評価・検証委員会」が設置され、第1回委員会が開催されました。

委員会設置の目的については、2008年度以降、各地でセンターを立ち上げ運動を進めましたが、「LSC第二次5カ年計画」に基づく検討課題、拠点やコーディネーターの配置、財政など、総合的な検討課題について議論し、これからのLSC事業の方向性について検討するものです。

具体的な議論は2回目以降となりますが、2016年3月開催予定の理事会で一定の考え方を示す予定としています。
確認された委員会体制は以下のとおりです。

牧野 (連合新潟・事務局長)
山田 (県労協・専務理事)
米山 (連合新潟・副会長)
大岩 (労働金庫・総務部長)
関川 (総合生協・常務執行役員)
久志田 (下越地区労協・事務局長)
斉藤 (新潟地区労協・事務局長)
中川 (佐渡地区労協・事務局長)
佐藤 (県央地区労協・事務局長)
矢島 (長岡地区労協・会長)
西巻 (柏崎地区労協・事務局長)
羽深 (上越地区労協・会長)
村田 (ろうきん財団・事務局長)
本間 (育成会・夢咲・事務局長)
大瀧・小野塚 (県労協・事務局長)



話そう、笑おう。

宴会

宿泊用プラン 2015-2016

専用
パンフレットが
ございます

■ 期間 ■
2015年11月13日(金)～2016年4月15日(金)
※12/29～1/5の期間を除きます。
■ おひとり様代金(税別) ※1泊2食付き・大人4名様以上1室利用の場合
8,000円～15,500円

総合生協グループ
コープ・トラベルセンター
株式会社 コープサービス

新潟営業所
〒950-0086 新潟市中央区花園2-1-6
☎025-245-8589

長岡営業所
〒940-0036 長岡市愛宕3-7-24
☎0258-39-7730

<http://www.niigata-travel.coop>
コープ・トラベルセンター 検索

東部ブロック労福協 第9期福祉リーダー塾の修了式

10月16日（金）、田町交通ビル会館（東京）において、東部ブロック労福協主催の第9期福祉リーダー塾の修了式が開催されました。

黒河会長の開会挨拶後、中央労福協・山本副会長から今年度の重点課題である「奨学金問題」について提起され、2015生活底上げ・福祉強化キャンペーンの一環として改めて取り組みの重要性について再確認しました。

その後、24名の塾生から作成した小論文について報告があり、講師団の講評とまとめによって全員が修了証を授与されました。

県労福協からは、川上敦之さん（県労働金庫経営企画部）と吉田 仁さん（総合生協新潟中央支局）が修了式に参加されました。

東部ブロック40周年の記念事業としてスタートした「福祉リーダー塾」は、事業開始から10年で卒業生も218名となりました。「にいがた福祉リ



ダー塾」は3期を終了していますが、東部ブロックリーダー塾との連携の下、さらに充実したリーダー塾をめざし、カリキュラムの補強や事業運営のあり方等を検討していきます。

2015生活底上げ福祉キャンペーン すべての県民が生活困窮から 脱出するためのシンポジウム

10月24日（日）、2015生活底上げ・福祉強化キャンペーンの一環として、「全ての県民が生活困窮から脱却するためのシンポジウム」が長岡市商工会議所・大ホールで開催され、120名が参加しました。

このシンポジウムには、今年から本格実施となった生活困窮者自立支援事業を県労福協に委託している新潟県をはじめ、新潟市・長岡市・上越市の自治体と県弁護士会、県司法書士会、県社労士会、NPO団体、マスコミなど、多くの団体・関係機関より後援をいただきました。

また、シンポジウムの準備と運営は、長岡地区労福協を中心にライフサポートセンター、パーソナル・サポートセンター、寄り添いホットライン北越地域センター等、三事業団体により運営されました。



齋藤実行委員長（労福協理事長）のあいさつ後、シンポジウムの第一部は、一般社団法人社会的包摂サポートセンター・遠藤智子事務局長から「つなぐ支援からつながる支援へ」のテーマで生活困窮者自立支援における寄り添いホットラインの役割を中心に今日的な課題について問題提起を含む基調講演がありました。その後、第二部として支援事業を実施している各団体から選出されたパネリストによるパネルディスカッションが開催され、現状の取り組みと課題等、事例を交えての実態報告と意見交換となりました。

参加者の中から地域で活動してい

者の発言をいただき、会場内の一体感あるシンポジウムとなりました。

こうした支援事業は、行政をはじめ、地域で活動しているNPOや市民活動団体の連携が大切であることを改めて確認できるものとなりました。

<基調講演>

- ◇講師 一般社団法人社会的包摂サポートセンター（遠藤智子事務局長）
- ◇テーマ 「つなぐ支援」から「つながる支援」へ
～生活困窮者自立支援におけるよりよいホットラインの役割～

<パネルディスカッション>

- ◇パネリスト
新潟県福祉保健部福祉保健課（小林主査）、ながおかライフサポートセンター心と体を守るセルフケア（今井フェミニストカウンセラー）、新潟市パーソナル・サポートセンター（蛭原主任相談支援員）、よりよいホットライン北越地域センター（大野主任相談員）
- ◇コーディネーター
よりよいホットライン北越地域センター（金子事務局長）

2015年度・中央労福協 第4回LSC実務者・相談員研修会 コーディネーターのスキルアップをめざし

2015年10月27日（火）・28日

（水）の2日間、中央労福協主催の第4回LSC実務者・相談員研修が「ホテルベルクラシック東京」で開催されました。

この研修は、東京・大阪の2カ所で開催され、新潟県労福協からは、東京会場に事務局と地区労福協からの3名が参加しました。研修内容は、LSC事業にとって相談件数の多い課題について、様々な領域に及ぶ講演やロールプレイングなど、実践的な教訓となりました。日頃、多岐にわたり複雑な相談を受けているコーディネーターにとって、他県の活動に学ぶことも含め有意義な研修となりました。

1日目

◇「遺産相続の基礎知識と相談現場での留意事項」弁護士・石川浩一郎氏。
◇「DVや虐待の原因と現状」



精神保健福祉士 菊田 尚晴氏

◇「パワハラ、セクハラの対処法・相談事例」（ロープレ含む）
（一社）日本産業カウンセラー協会 林 久美子氏

2日目

◇「消費者被害の現状と対応」相談現場で心得ておくべき被害の手口
元日本消費者協会専務理事 山田 英郎氏

◇「相談事例ネットワークについて」

中央労福協事務局次長 栗岡勝也
（参加者・3名）

○新潟県労福協 小野塚事務局長
○佐渡地区労福協 中川事務局長
○佐渡地区労福協 本間相談員

自立した持続可能な地域社会創造事業 地域づくりセミナー in 高柳

2015年11月11日・12日、ろうきん福祉財団主催の3回目となる地域づくりセミナー（自立した持続可能な地域社会創造事業）が風光明媚な柏崎市高柳「じよんのび村（萬歳楽）」で開催されました。この事業の助成団体や選考委員、ライフサポートセンター、NPOなど、48名が参加されました。



第1部は、岡山西栗倉村（人口1,600人）で移住・起業支援など、村民の伴奏者としてローカルベンチャーを支援している棚西栗倉・森の学校代表（校長）の牧大介氏より活動状況を踏まえ、示唆に富む講演がされました。

第2部は、昨年度の地域社会創造事業助成団体より取り組みの成果が報告されました。

（特非・ふあいんど）

小林克太郎氏

（一社・佐渡地域観光交流ネットワーク） 鈴木 恵美氏

（ものずき村村長）

仲丸 幸氏

第3部は、地元の伝統芸能である黒姫神社保存会「獅子神楽」の皆さんから獅子舞の花を添えていただき、自立した持続可能な地域づくり、人づくりをめざし活動を継続していくこと等確認し有意義な交流会を開催しました。

2015ワーク&ライフセミナー in 柏崎

11月21日（土）、「かしわざき市民活動センターまちから」において、2015ワーク&ライフセミナー in 柏崎に90名が参加して開催されました。

村山実行委員長（柏崎地区労福協会長）主催者あいさつ、山田専務理事（県労福協）の趣旨説明後、第一部の基調講演として、障害児の母親サークルを母体に地元で活躍されている社会福祉法人ロングランの西川紀子理事長による、テーマ「仕事×市民活動で豊かなまちへ」の講演がありました。

重度重複障害のある一人息子を授けたことがきっかけで、

社会への「願い・想い・怒り」を一つひとつ行動に移され、いくつもの病気や障害と付き合いながら、それでも笑顔



る彼（息子）の生命力と気力が私を励ましさせていることを伝えていただきました。第二部は、「地域を支える様々な活動のカタチ」として、①NPO法人GROW UP、②野の花、③NPO地域活動サポートセンター柏崎、④NPO法人柏崎まちづくりネットあいさ、の4つの団体から活動報告がされました。その後、参加者による交流会が行われ、日頃の活動や人と人との有意義な交流となりました。

中央労福協第62回定期総会 連帯・協同で安心・共生の福祉社会をつくろう

2015年11月27日、東京・ホテルラングウッドで労働団体・事業団体・地方労福協等、220名が参加する中で中央労福協第62回定期総会が開催されました。総会では、2014年～2015年度の活動報告と2016年度～2017年度の活動方針が参加者全体の総意により確認されました。

特に、議論の中心課題では、2015年度生活底上げ・福祉強化キャンペーンの柱でもある、若者を追い込む「奨学金」問題と昨年4月から始まった生活困窮者自立支援制度の地域定着をめざす取り組みが提起され、地方からも呼応する意見表明がされました。

また、役員改選では、古賀会長から神津会長（連合会長兼任）と交代され、副会長・事務局長も含め、役員の半数にあたる大幅な役員改選となりました。



最後に、人と人のつながりが・絆が大切にされる、ぬくもりのある社会、貧困や社会的排除を許さず参加が保障される社会、労働を中心に様々な社会サービスをつなぐ支援型の福祉社会をめざす、労福協のスローガン「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」を確認し総会の終了となりました。

東部ブロック労福協 第50回定期総会を開催

12月10日、甲府市・ホテル談露館において、労福協東部ブロックの第50回定期総会が開催されました。

総会に先立ち、地元、山梨県産業労働部・上小澤次長の歓迎あいさつに続き、2015年度の活動報告並びに会計報告・会計監査報告を行い、その後、2016年度の活動方針・予算案が承認されました。

総会では、2016年にブロック結成50周年を迎えることとなり、それを契機に「組織財政検討委員会」および「50周年記念総会・行事検討委員会」など、2つの検討委員会を

立ち上げ検討を進めてきた両委員会の報告がされました。

活動方針では、若者を追い込む雇用劣化と奨学金問題の改善に向けた取り組み、生活困窮者自立支援制度の充実をめざした生活・就労支援の取り組み、労働者福祉事業の促進・活用による共助の輪を地域に広げる取り組みなど、「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」の実現に向け、



各地方労福協、労働団体、福祉事業団体との連携強化を図り、全力を挙げていくことが確認されました。

篠田新潟市長へ 要請書の提出

平成28年度の新潟市予算編成に勤労者の生活向上につながる政策提言を行うため、2015年12月22日、齋藤理事長から篠田市長へ労働者福祉に関わる要請書を提出しました。

要請内容として重点的なのは、奨学金の返済で困っている課題の改善と地方創生の観点から協同労働についての意見交換を行いました。

要請行動は、県労福協（齋藤理事長、山田専務理事）と新潟地区労福協（西山副会長、齋藤事務局長）、ワーカーズコープ（小椋事務局長）による要請行動となりました。要請項目は以下のとおりです。①奨学金の改善に向けて、②東日本大震災の被災者支援、③格差・貧困社会の是正、セーフティネットの強化、④消費者行政の充実・強化、⑤フードバンク活動の促進、⑥「協同出資・協同経営で働く協同組合法（仮称）」の早期実現に向け、⑦少子化対策、⑧中小企業勤労者の福祉格差の是正など、8項目について要請しました。

後日、文書による回答及び中間的な状況を報告いただくことを確認し、要請活動を終了しました。



上越パーソナル・サポートセンター第3回支援調整会議 新潟県弁護士会主催「上越地域いのちを守る勉強会」

勉強会の開催目的は、生活上に様々な問題を抱える自殺ハイリスク者の事例検討を通して、各機関の可能な対応を学ぶことで、自殺支援に係る担当者等の支援レベルの向上及び関係機関の支援体制の構築を図ることとしていきます。

具体的には、多くの課題を抱えたPSセンターで取り扱った事例を題材に、異なる複数の専門職による参加者が問題点と解決方法について分散会のスタイルで検討し、まとめるという手法です。

今回の支援調整会議は、一部・二部の組み立てとし、従来の支援調整会議の終了後、新潟県弁護士会「人権擁護委員会」主催による「上越地域いのちを守る勉強会」を支援調整会議のメンバー等、合同の勉強会を開催しました。



2015年12月21日（月）上越パーソナル・サポートセンター第3回支援調整会議が上越市民プラザで開催

当面の主な活動予定

- 1月25日（月）東部ブロック労福協カリキュラム検討委員会
- 28日（水）新潟地区労福協賀詞交歓会
- 2月10日（水）フードバンクにいがた運営委員会
- 13日（土）フードバンクセミナー（長岡）
- 15日（月）フードバンク役員会
- 16日（火）東部ブロック労福協幹事会
- 17日（水）" "
- 18日（木）第4回LSC評価・検証委員会
- " 見附LSC元気の会
- 24日（水）第4回上越PS支援調整会議
- 3月9日（水）フードバンクにいがた運営委員会
- 10日（木）第1回地方労福協会議
- 11日（金）" "

この勉強会により、改めて上越市からの委託を受けている生活困窮者自立支援事業の推進には、相談機関、相談担当者の顔の見える実務的な連携と協力が不可欠であり、各機関が相互に活動内容、専門性、特性を理解し合うことの重要性が確認されました。

参加された団体は、左記のとおりです。

上越市、民生委員、児童委員、保護士会、地域包括支援センター、上越市基幹相談支援センター、社会福祉協議会、医師会、商工会議所、ハローワーク、年金事務所、地域振興局、連合上越、NPO団体、上越PSセンター等

NPO等助成事業

県民の福祉向上を図ることを目的とし、県民福祉の新たな担い手として期待されているNPO等市民活動団体の活動に対し助成を行っています。これまで下記の通り、県内各地で活動するNPO等市民活動団体に対し13年間で総額1億1,800万円余の助成金を交付し支援してきました。

■助成実績(2003年度～2015年度)

	助成団体	助成金額
～2012年度	189	9,048万円
2013年度	16	904万円
2014年度	20	945万円
2015年度	21	935万円
総累計	246	1億1,832万円



■2016年度募集内容(予定)

【応募期間】2016年3月上旬～4月上旬

【助成金額】100万円または所要資金の80%のいずれか低い金額

【助成使途】・事業拡大・発展資金 ・団体の運営合理化資金 ・NPOの支援資金

詳細が決定いたしましたら、当財団ホームページでご案内いたします。

大学奨学金事業(給付・貸与併用型)

予告

『奨学金の半額は返還不要!』

2016年6月中旬から募集開始予定です。

■2017年度奨学生募集(概要)

【募集対象者】次のすべてに該当する方

- ・新潟県民である勤労者世帯の子
- ・2017年度4年制大学進学予定者
- ・ひとり親家庭の子
- ・学資の支弁が困難な家庭



【奨学金交付額】

月額2万円(4年間総額96万円)
上記金額のうち、月額1万円は給付、
月額1万円は貸与(無利息)

【貸与奨学金返還について】

奨学金交付総額の半額を大学卒業後
4年で返還(無利息)



このほかの事業も積極的に展開しています。是非当財団HPもご覧ください。

(一財)新潟ろうきん福祉財団 ☎ 025-228-5273 HP <http://www.zaidan-hukushi.or.jp>

教育ローン キャンペーン やってます

チャンス
1

教育ローンに関するご相談の方

合格祈願文具セット

- 五角鉛筆(2本)
- 消しゴム

または

キッチン
タイマー

+

進学マネープランガイドブック

チャンス
2

期間中ろうきん教育ローンをお申込の方(仮申込を含む)

図書カード1,000円分

もれなくプレゼント!

【期間】2016年5月31日(火)まで

※詳細については〈ろうきん〉窓口にてお問い合わせください。



パソコン・スマートフォンからも簡単に仮申込ができます!

新潟ろうきん

0120-191-880 (平日9:00~17:00)

新潟ろうきん

検索

新規お申込み受付中!

総合生協の夕食宅配

お弁当コース

1週間あたり **2,675円**
〔月～金〕 (税込2,885円)

1食あたり **535円**
(税込577円)

おかずコース

1週間あたり **2,850円**
〔月～金〕 (税込3,075円)

1食あたり **570円**
(税込615円)

月～金(週単位)でお届けします。商品のお届けとあわせて「見守りサービス」を行っております。
(総合生協は新潟県と「地域の見守り活動に関する協定」を締結しております)



ボリュームアップおかずの「ほほえみ御膳コース」もございます。

一部でお届けできない地域もございます。あらかじめご了承ください。

総合生協の
夕食宅配

お問い合わせ
お申込み



0120-025-261

クルココールセンターまで [受付時間] 9:00～17:00 (月～金)



連合
働くみなさん
ご注目!!

連合キャラクター
ユニオニオン

パート・アルバイト・契約・派遣などで
働くみなさんのための
連合労働相談ホットライン

いこうよれんごうに
0120-154-052

下記のような相談が、「連合なんでも労働相談ダイヤル」に全国から年間約 **16,000** 件も寄せられています。



**有給休暇が
取得できない**



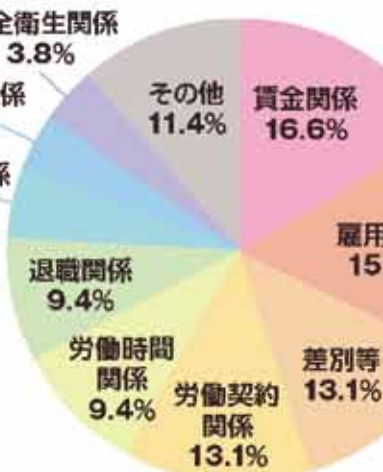
**毎日、同僚がいる前で
怒鳴られる**



**契約期間中なのに、
突然雇い止めにされた**



**長時間労働・サービス残業は
当たり前**



相談内容	割合
賃金関係	16.6%
雇用関係	15.9%
差別等	13.1%
労働契約関係	13.1%
労働時間関係	9.4%
退職関係	9.4%
その他	11.4%
安全衛生関係	3.8%
労働組合関係	3.9%
保険・税関係	5.1%

出所:「連合なんでも労働相談ダイヤル」
(2014年1月～12月)

ゆるさない! ワークルール無視!! パート・アルバイト・契約・派遣などで働く人のための
労働相談ホットライン

2016年2月4日(木)～6日(土) 10:00～19:00



ゆるさない! ワークルール無視!!
パート・アルバイト・契約・派遣などで働く人のための
連合労働相談ホットライン

連合新潟  **0120-154-052**

〒950-8558 新潟市中央区新光町6-2 勤労福祉会館内

上記の実施期間以外も受け付けています。
携帯電話・スマートフォンからでもOK!最寄りの連合につながります。